



研究部会報告

● 不確実性理論の経営科学への応用 ●

・第1回

日時：3月29日(月) 18:00~20:00

出席者：7名

場所：日本科学技術連盟(千駄ヶ谷)3-3-C室

テーマと講師：「Topics from the Game of Score Showdown」

坂口 実(大阪大学名誉教授)

“keep or exchange”カードゲームについて発表した。区間 $[0,1]$ から無作為に選ばれた数字を記したカードを裏返しにして2枚ずつ n 人の players に配布する。 n 人の players は順番に2枚のカードの1枚を表にして書かれた数字を大声(他の players に分かるように)で読み上げて開いたカードを“keep”するか他のカードに“exchange”するかを決め、この決定を他の players に公開する。keep 又は exchange したカードの数字がその player のスコアとする。全員の play が終了したとき、カードを showdown してスコアの最大な player が勝ちとする。各 player が勝つ確率を最大にするように行動するこの逐次ゲームには DP 手法が使えず、解析は一般に難しい。ここでは、2人および3人ゲームに対して均衡解を求めている。問題設定及び情報構造が“toetjes”ゲーム(T. Feder (1990), Amer. Math. Monthly, 97 (785-794))に似かよっており大変興味深い。

● 待ち行列 ●

・第177回

日時：4月17日(土) 14:00~16:30

出席者：21名

場所：東京工業大学 西8号館(W)809号室

テーマと講師：

(1)「Analysis of GI/M/1 queue with multiple working vacations」

馬場 裕(横浜国立大学)

サーバのバケーション期間中は通常とは違う率でサービスが行われる(Working Vacation)待ち行列モデルについて、既存研究等が紹介された。次に、GI/M/1待ち行列にWorking Vacationを導入したモデルに対して、定常状態における系内長分布(到着時点および任意時点)、およびFCFSサービス規律における待ち時間分布を求めるための解法が示された。質疑応答では、解法で現れる方程式の根の性質等について、活発な議論がなされた。

(2)「光バースト交換技術の動向と待ち行列モデル」

笠原正治(奈良先端科学技術大学院大学)

はじめに近年のフォトニックネットワークの研究動向、および最近注目を集めている光バースト交換技術と関連する性能評価研究が紹介された。また性能解析の例として、光バースト生成機構を考慮した待ち行列モデルとその解析法が示された。さらに、モデルとシミュレーション結果の比較によって、モデルの有効性および実装との差が現れる部分が示された。

● 平成16年度会費納入のお願い(事務局)

平成16年度の会費請求書をお送りいたしましたので、お早めにご送金くださるようお願いいたします。なお、15年度の会費を未納の方は合わせてお支払いくださるよう重ねてお願いいたします。

〔預金口座振替ご希望の方へ〕

預金口座振替をご希望の正会員の方は、学会事務局までTEL, FAX, 郵便にてご連絡ください。折り返し預金口座振替依頼書をお送りいたします。